



露地ビワの果実は出荷時には見かけ上、健全であっても、市場に到着した後に腐敗が発生するものがあり、問題となつていきます。その対策として、腐敗の原因となる糸状菌の感染時期である開花期に殺菌剤を複数回散布し、花への菌の侵入を防ぐ防除方法が有効です。しかし、ビワの開花期間は11～1月と長いため、生産現場から薬剤散布の適期把握が難しいとの意見が寄せられていました。そこで、開花期間における最も効果の高い防除開始時期や防除

間隔について検討しました。試験は、摘蕾(てきらい)適期(開花直前)の他、開花

露地ビワの腐敗防止

薬剤散布の適期把握 摘蕾適期が最も有効

初期、開花盛期の3段階で防除を開始し、それぞれ2、3週間間隔で3回防除を実施しました。その後、収穫期に果

表 防除開始時期と果実腐敗

防除開始時期	腐敗果率(%)	防除価
摘蕾適期	17.2	56.0
開花初期	25.4	37.9
開花盛期	25.7	34.7
無防除	48.7	—

※2017～19年の3カ年平均、防除価は数値が高いほど効果が高いことを示す

実を収穫し腐敗果の発生を収穫10日後まで調査しました。その結果、開花直前に当たる摘蕾適期に防除を開始する体系が最も高い防除効果が得られ、果実腐敗の防止に有効であることが示されました。(長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門カンキツ研究室専門研究員 小嶺正敬)